



自然の中で心身ともに大きく育て!!

妙高連山が一望でき矢代川が裏を流れている当園ですが、旧新井市の中心部に位置し数十年前からどんどん自然が失われてしまった地域です。また、日々の保育の中でも、近年の子ども達の環境の変化に不安を感じていました。そのような時に平成17年10月から国立妙高青少年自然の家での活動を開始させて頂く事ができました。子ども達は、四季を通して年6回、春は森の中で自然散策、木のぼり。夏は大田切川での川あそび、源流体験。秋は木の実拾い。冬はソリあそび、雪あそびと通年を通して活動させてもらっています。ようやく3年目に入りましたが、少しずつ子ども達の変化が来ているのを感じるようになりました。最初は、手、足、洋服が汚れることを嫌がり活動に集中できなかった子ども達が、我を忘れて森の中を駆けまわっている姿、源流体験でも手と足を上手に使って崖をよじ登ったり下ったりする姿、おさるさんのように木のぼりをする姿、雪の林の中を長靴に雪が入っても平気でいろいろな物を探し楽しんでる姿、まだ3年目に入ったばかりですが、自然の中で暑くても寒くてもしんどくても喜んで活動している姿に、自然に慣れて来た事と確実に大きく育っていることを実感しています。

社会福祉法人とさわ保育園 園長
笠原千鶴留



教室が妙高の自然の中にある



私たちの教室は、国立妙高青少年自然の家のフィールドです。教科書がなく体験から学ぶその授業は、学生の楽しい時間です。一年間を通して同じフィールドに通い、どんな生き物や植物がいるのか、どんな楽しい場所があるのか、学生は自分の目で、そして身体でフィールドを知っていきます。自分が不思議に思ったこと、気づいたこと、感動したことが心を動かし、誰かに伝えたいくなります。そのことが私たちの授業の原点です。自分が体験した感動を子どもたちに伝えることができる指導者を目指して妙高の自然の中で学んでいる学生。きっと、全国に旅立ち、妙高での学びを広げてくれることでしょう。

国際アウトドア専門学校 講師
小菅江美



まずは自分から〜妙高で私が感じたこと〜

私は国立妙高青少年自然の家での2日間の研修を通して、活動プログラムに参加する側、そして企画する側の両側に立った経験がすることが出来ました。体験を通して自然やコミュニケーションについて学ぶことが多かったけれど、今回私は、「自然にかかわるって、人にかかわるってこんなに楽しいんだ!!」と思えたことにたいへん大きな意義を感じました。

自分が「楽しい!」と思うことでなければ、相手に楽しんでもらうことなんてできない。まずは自分で体験し、楽しさを知ることが企画する側にとって一番大切なことなのではないかなという事を感じました。

私にとっては、多くの収穫のあった2日間でした。どうもありがとうございました。



清泉女学院短期大学
夏目千草

※大学の通年授業「ボランティア実務」の合宿研修が企画指導専門職による直接指導によって展開された。(単位認定授業)

子どもたちの健やかな成長を願って、妙高の大自然をフル活用されている指導者の皆様、自らの成長を願い妙高に足を運んだ大学生などから素敵なメッセージをいただきました。
「子どもたちにもっと自然体験をさせたい!」これが国立妙高青少年自然の家のオモイです。皆様からのメッセージを胸に刻み、さらに飛躍する施設づくりに邁進していきます。

学社融合を切り拓く Open the Door



「国立妙高青少年自然の家」は学校教育と社会教育とを結びつける「Open the Door」としての役割を果たしています。

「学校」と「自然の家」が手を取り合って、子どもたちに「本物体験」を通しての様々な「原体験」により「豊かな人間性や社会性」を育てることが、今、求められています。

「国立妙高青少年自然の家」と「全国小学校学校行事研究会」等の研究団体が平成17年度・19年度に国立妙高青少年自然の家において「豊かな人間性や社会性を育む学校行事推進フォーラム」を開催したことは、「体験活動」を社会教育と学校教育とで実践・検証してきたこととなります。この取組みは「学社融合の教育実践」の扉を切り拓いたと確信しています。

全国小学校学校行事研究会 会長
池田政次



感動は体験から生まれる

平成3年秋の夕暮れ、学校の勤務を終えて私は国立妙高青少年自然の家の事務所(今の第1駐車場にプレハブがあった)を訪ねた。アンドロメダ棟など各棟の談話室に掲げる説明文の打ち合わせであった。さらに子ども達に本物の星を覗かせてやりたいとの思いから望遠鏡を20台入れてもらった。

平成4年のオープン以来、どれだけの子ども達が、この望遠鏡で月や星を覗いて感動を共有したことだろう。

自然の家の初代所長五十川さんはじめ、角張課長さん、佐藤専門職員さん等と生みの苦しみを共にしたあの当時を経て、今日の国立妙高青少年自然の家の発展があることを大変うれしく思う。

外部研修指導員〈星空観察〉上越清里星のふるさと館
細谷 一



人を成長させる場所



社会教育実習生として妙高に1週間お世話になりました。実習中に体験させて頂いたプログラムの中で、特に印象に残ったのは、コンパスだけを頼りにグループで目的地を目指す「ストレートハイク」です。試行錯誤しながら夢中で課題に取り組んでいく中で、無意識のうちに自分の態度に変化が起きました。この国立妙高青少年自然の家は、仲間や自然とのかかわりの中で自らが変化し、成長することができる場所だと思います。

また今回は、利用者として訪れるだけでは分からない、自然の家の仕事の大変さも知りました。職員の方々の仕事への態度から学ぶものも多くありました。自然の家での活動が、職員の方々の地道な努力に支えられていることを知りました。

社会教育実習生 立教大学
田中友恵

